

あーちきょうりょう（いちごうきょう・にごうきょう）

アーチ橋梁（1号橋・2号橋）

市指定文化財 昭和 55 年 3 月 28 日指定

明治政府が官営釜石製鉄所と建設するにあたり、鈴子～大橋間に 明治 13(1880)年に日本で 3 番目の鉄道として工部省鉱山寮釜石鉄道を敷設しました。小川アーチ橋梁は原燃料輸送のため、この支線として設置されました。この橋梁はイギリス積みで構築されており、上にはレールが敷かれ前述の鉄道が走り、現在は市道の橋梁として使用されています。鉄道用橋梁としては我が国では最古級です。



1 号橋



2 号橋

1 号橋は JR 釜石線小佐野駅の北西約 0.54 km に位置し、甲子川の支流小川川右岸に合流する中井沢に架かります。2 号橋は JR 釜石線小佐野駅の北西約 1.53 km に位置し、甲子川の支流小川川右岸に合流する呑ヶ沢に架かります。どちらも赤色煉瓦造りのアーチ橋梁跡で、工部省鉱山寮釜石鉄道小川支線の遺産であり、現在は市道の橋梁として使用されています。工部省鉱山寮釜石鉄道は我が国 3 番目の鉄道であり、当アーチ橋梁は、現存する最古の鉄道橋梁跡のひとつと考えられます。昭和 55(1980)年、第 1 号小川アーチ橋梁と共に

釜石市指定文化財に指定されました。

小川支線は多量の木炭を製鉄所に供給するため「わらび野」から「小佐野」に至る4.9kmが整備されました。小川支線の敷設時期ははっきりしないが、「大橋」「鈴子」間の本線は明治9(1876)年に起工し、明治13年8月30日より運送が開始され、明治16(1883)年に廃線になっていることから、ほぼ同時期の所産と考えられます。構造をみると欠半円アーチ部分は赤色煉瓦、基礎部分は石材による布積みで、基礎部分から路盤と考えられる部分まで赤色煉瓦のイギリス積みで構築されています。上部構造は現在の市道敷設時に欠損したと考えられ、新しい煉瓦で積み直されています。